

第4回五霞町立学校のあり方検討会会議録

新型コロナウイルス感染及び拡散防止の観点から、5人程度のグループに分かれて、3密を避けながら分散型で開催いたしました。

日 時 1グループ 8月25日(火)午後3時～
2グループ 8月26日(水)午後1時15分～
3グループ 8月27日(木)午前10時～
4グループ 8月27日(木)午後6時～

場 所 五霞町中央公民館 青少年研修室
出席者 五霞町立学校のあり方検討会会員 17名
教育委員会 教育長 事務局職員 7名

- 1 開会
- 2 協議事項
 - (1) 第3回の振り返り
 - (2) 具申(案)について
 - (3) 小中一貫教育について
 - (4) その他
- 3 閉会

(2) 具申（案）について

- ・具申（案）については、大体は反映されていると思う。
- ・魅力がある学校とは、教育がよい学校だと思う。
- ・幼稚園・保育園は町外からも入園しているのは魅力があるから。

ア 小学校の適正規模・適正配置について

- ・細部ではなく、大きく捉えて具申するべき。細部は付帯意見としてまとめる。

イ 統合の是非

- ・「統合した方がよい」ということをもっと具申書に入れた方がよい。
- ・子供たちに説明できる内容にしたい。
- ・現在の案は、学力向上と定着が目的のようになっている。
- ・学力向上を第一の目的にしてしまうと、本来の主旨からずれるのではないか。
- ・人格の形成（人間性）が第一だと思う。
- ・小規模の欠点として、部活やスポーツの点を加えてほしい。
- ・部活動は大切。異学年で一つの目的に向かう教育は効果が大きい。
- ・五霞町に優秀なスポーツのコーチはいる。教える場を作ってほしい。

ウ 統合の時期

- ・前はスケジュールイメージの説明があったが、はっきり記載する必要がある。

エ 具体的方策に対する付帯意見

(ア) 目的

- ・五霞町の教育の目的・目指すところを特出しすべき。
- ・学級の人数は法で決まっている。茨城県として 35 人学級に変えられるはず。町は積極的に県へ働きかけてほしい。
- ・茨城県では、弾力化により小学校 2 年生まで 35 人学級で対応している。毎年検討されている。

(イ) 通学方法

- ・児童の体力低下なども懸念されるが、全員スクールバスにしてはどうか。バスの集合場所が家から遠く、そこまでが一人になることもある。徒歩通学の場合も同様。

- 全員スクールバスにする場合、バスの数、時間、予算などを検討しなければならない。
- 送迎してしまう保護者もいて、徒歩通学をしている児童が減っている。
- 通学方法は気になる。課題がある。人数が少ないと送迎してしまう。

(ウ) 各校の伝統

- それぞれの学校のいいところを合せて考えながら進めていきたい。

(エ) 地域コミュニティ活動

- 地域の関わりは今のまま残していきたい。
- 地域と共にある学校づくり
- 町の子供が少ないなら、地域と連携すべき。
- 複合施設も考慮すべき。

(オ) 統合後の学校跡地利用

- 廃校ではなく跡地利用という表現が望ましい。

(カ) 町づくり

- 若い世代の人たちに、川に囲まれている五霞町にどうやって住んでもらうか。移住してもらうにはどうしたらいいか。
- 都心から 50km 圏内でアクセスがよいのにどうして住んでもらえないのか。
- 買い物や病院等が心配で、引越する前は住みたくなかった。
- 子供の人数が減っている今の現状が続けば、五霞町総合計画の人口目標（令和 21 年に人口 7,000 人の維持）よりも減ってしまう。町には若い世代が住みやすい町づくりをお願いしたい。
- 駅がないなら、もっと道路を整備してもらいたい。

(3) 小中一貫教育について

- 第 4 回で小中一貫型小学校・中学校か義務教育学校かを決めるのは難しいのではないかと感じる。小学校統合は意見としてまとまってきていると感じる。
- 小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校の中身は変わらない。
- 小学生と中学生が交流することはスポーツ界と同様だと感じた。
- 町としては小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校のどちらがよいのか。
- 保護者の間では、小学校の統合については早くしてほしいという意見をよく聞く。小中一貫教育についてはまだ理解が深まっていないと感じる。
- つくば市の学校は小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校のどちらもあり、選択できる。
- 今決めて、実際にできたときに、考えていたものと違うものにならないようにしたい。
- 令和 8 年度以降は児童及び生徒数の増加見込みが薄い。9 年間単学級であれば、どちらがよいのか。先のことも考えて決めたい。
- 子供たちの卒業後を考えると、どちらの学校がよいのか。

ア 小中一貫型小学校・中学校

- 義務教育学校と比べて小中一貫型小学校・中学校のほうが取り組みやすい。
- 学年単学級が続くようならば、小中一貫型小学校・中学校のほうが手厚い指導ができるのではないかと感じる。
- 小中一貫型小学校・中学校の方が子供たちの戸惑いは少ないと思う。急な変化によるつまずきが心配。

イ 義務教育学校

- 少子化が加速し、未来の子供たちを考えると義務教育学校にするべきではないかと感じる。
- 変化があるときは痛みを伴うもの。きちんとした住民説明が必要。
- 新しい制度なので、義務教育学校の方が魅力的に感じる。
- 長い目で見れば義務教育学校にしてもよいのではないかと感じる。

ウ 段階的に移行してはどうか

- 小中一貫型小学校・中学校から段階的に義務教育学校へ移行してはどうか。
- 少子化が進む中で小学校を統合してから、義務教育学校を検討してはどうか。

エ 運営体制

- 校長が二人よりも一人の方が動きやすいのではないか。
- 小中一貫型小学校・中学校の場合は統括のリーダーを決めるので統一は図れる。一般的には中学校長が務める。
- 義務教育学校は 1 校になって校長も一人。学校間の競い合い、補い合いもなくなることが心配。

オ 教科担任制

- 教科担任制を導入してほしい。
- 専門の教員に教えてもらえるのはよい。

カ 進学

- 町に高校以降の学校がないので、中学 2, 3 年生の 2 年間は進学の準備をさせたい。
- 小中一貫教育は、そもそも進路勉強のためではない。
- 9 年間を通すことで中 1 ギャップの解消などが大切。

キ ギャップ

- 義務教育学校の 9 年制だと、節目がなくなるのはデメリットと感じる。どこで節目を作るのか。
- 義務教育学校は節目がない。中学校に入学するという期待、小学校 6 年の自覚、リーダーシップが薄れるのではないか。
- ある程度のギャップは個々の成長には必要なのではないか。
- 小学校 5, 6 年はとても大切な時期。中 1 への繋がりを大切に。
- どちらもメリットがあるが、小学校 5, 6 年生の時期が大切。中学校につながるようにしながら高学年の在り方を大切にしたい。
- 五霞町内の最高学年が中学生となる。町外へ出るときのギャップが大きくなるのではないか。
- 義務教育学校だと小学校、中学校でのけじめがなくなる。
- 中 1 ギャップは必要な部分もある。先輩との関係なども学びの一つだと思う。
- 小中一貫型小学校・中学校も学校行事等でかなり交流するので、中 1 ギャップは和らぐ。
- 中 1 ギャップの解消率は小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校のどちらが高いのか。
- 義務教育学校の方が中 1 ギャップなどの対応を考えるといいのではないか。
- 些細なことで心が折れてしまう子供も多いので、力強く生きていける子に

なってほしい。

- 低学年のときから生きる力を身に付けさせることが必要。
- 小学校で伸ばせれば中学校でもっと伸びる。

ク 教員免許

- 義務教育学校では小学校、中学校の両方が必要となってくる。
- 茨城県では教員の両方の免許取得に力を入れている。
- 義務教育学校の場合は、教員は大変だがスキルアップは図れるのではないか。

ケ 働き方

- 統合、小中一貫教育にすると教員の多忙は解消するのか⇒難しい。
- 子供たちを見られる教員の余裕を作れるようにしたい。

コ 教職員人数

- 学校が別れている方が多くの人数が必要。
- 教員は固定化するのか。町内で先生の異動ができるのは小中一貫型小学校・中学校。義務教育学校では異動が校外（町外）になってしまう。

サ 財政

- 町の財政状況として予算がなくなってきているから統合なのか。
- 施設をスリムにして「教育」に予算を投入できるようにすべきではないか。

シ 施設

- 施設の問題、ハード面から考えてもよいのではないか。
- 現実的には現存のものを使用することになると思う。

第4回五霞町立学校あり方検討会での感想・ご意見について

※各グループでの会議終了時に、各会員にご記入いただいた感想・ご意見です。

1 グループ

- ・小学校を統合する理由を子どもたちにも分かりやすく説明したい。
- ・五霞町の児童が統合しても学ぶ型が小中一貫型小学校・中学校が良い。
- ・義務教育学校／小中一貫校 どちらが良いとは今回は言えなかったが、両者の違いを分かりやすく教えてもらえて良かった。
- ・子どもが年々減ってしまうので、思い切った転換が必要と思います。
- ・グループメンバーによって空気感が全く違うということを実感しました。

2 グループ

すべて言い切りました。

3 グループ

- ・①義務教育学校と②小中一貫学校・中学校だとしたら②の方が子どもたちにとっても先生方にとってもいいと思いました。
- ・皆さんの意見を聞いて、小中一貫型の方が実現しやすそうだったと思ったので、その方向で進めていければいいと思います。
- ・できるだけ早く進めてほしいと思います。
- ・資料2の児童数見込の表を見ていくと五霞町は5年で約100人の人口減（児童減）といえます。
- ・具申書（案）にあるように、町づくりでの対策も推進していただくと共に、スクールバス等の通学方法は、シミュレーションをして行く必要があると感じました。
- ・義務教育学校、小中一貫型の検討についても、更に話し合いを深めていけたらと思います。
- ・保護者の方々の意見も聞くことができ、大変参考になりました。
- ・具申書（案）の作成、ありがとうございます。

4 グループ

- ・子供達の将来を考えると大変難しく思います。
- ・一長一短はそれぞれありますが、五霞は昔から教育の先駆者であったと聞いています。ここで思い切った施策をし、義務教育学校に進んで行き、地域を巻き込み、皆で将来の子供達を育てていけたらと思います。
- ・学校を作る（考える）ということは五霞の未来を作る（考える）ということだと思う。
- ・22世紀に生きて行く今の子ども達の未来を思うと思い切ったことをした方が良いのでは、と思います。